

デンマークにおける小学校のメンタルヘルスケア —ウアンホイ小学校視察報告—

A Report on the Mental Health Care Provided by an Elementary School in Denmark

大 平 泰 子

OHIRA Taiko

1 はじめに

いわゆる高福祉国家として知られるデンマークについて、小児精神科における医療の実際、小学校におけるメンタルヘルスケアの状況、国民が高い幸福感を自覚しうる社会システムについての実態調査を目的として、平成23年3月20日から3月29日までの10日間に視察訪問を実施した。その間に、大学病院児童青年精神科、小学校、保育施設、廃棄物を燃料としたコージェネレーション発電所など種々の施設を視察する機会を得られた。本稿では、小学校の視察調査等によって得られた情報について、特にデンマークの小学校におけるメンタルヘルスケアの状況に焦点をあてて紹介する。

2 ウアンホイ小学校の概要および視察内容

1) ウアンホイ小学校の概要

デンマークにおいて小学校でのメンタルヘルスケアがどのように行われているかについて、その実態を知るため、3月23日に小学校の視察を行った。今回、視察訪問した小学校は、ウアンホイ小学校(Ørnhøj Skole)である。デンマークは5つの地域に分かれており、我々が訪問したウアンホイ小学校は、中央ユラン地域(Region Midtjylland)のヘアニング市(Herning Kommune)にある。ウアンホイ小学校には、0年生クラス(幼稚園クラス)から6年生クラスまでの7クラスがあり、全校児童数約120名の小規模な小学校である。1クラスあたりの人数は、15名から20名である。

ウアンホイ小学校では、学校見学、授業参観、同校のメンタルケア担当教員へのインタビューを行った。

2) 学校見学

ウアンホイ小学校の外観および内部の様子について、写真を提示し紹介する。写真1は、ウアンホイ小学校近隣の様子を、写真2は同校の外観を写したものである。写真3は校庭の遊具で遊ぶ子ども、写真4は廊下、写真5は職員室内の様子である。職員室は、各教員に作業机が割り当てられているのではなく、その時に空いているスペースを使用して作業するようである。デンマークの小学校では、本邦のような学級担任制をとっておらず、科目担当制である。教員は各教科を担当する専門職であり、教科書や教材などは各教員の裁量で決めることができる。クラス担任のような役割は、ウアンホイ小学校では国語の科目を担当する教員がその役割を担っている。写真6はミーティングルームである。空き教室であったが、現在はミーティングルームとして多目的に使用されており、相談室としても使用されている。



写真1 ウアンホイ小学校近隣の様子



写真2 ウアンホイ小学校の外観



写真3 校庭の遊具で遊ぶ子どもたち



写真4 廊下



写真5 職員室



写真6 ミーティングルーム

3) 授業参観

授業時間は、1時限が40分間である。今回は、小学校3年生の英語を参観することができた(写真7から10)。デンマークの母国語はデンマーク語であるが、実践的な英語力を身につけられるよう小学校3年生から英語教育を行っており、デンマーク国民の多くは英語を話すことができる。英語教育では特に会話やコミュニケーションを重視しており、英語の授業では、ワークブ

ックを用いた学習だけでなく、先生やクラスメイトと英語で会話をする、英語を用いたクイズやゲームをするなどの活動が取り入れられている。



写真7 英語授業の様子1



写真8 英語授業の様子2



写真9 英語授業の様子3



写真10 英語授業の様子4

4) メンタルケア担当教員へのインタビュー

ウアンホイ小学校のメンタルケア担当教員である Ms. Lisbeth Spanggaard にインタビューを行った。その詳細は次項に記載する。

3 デンマークの小学校におけるメンタルヘルスケアの実態

1) AKT とは

デンマークでは、学校教育領域における子どものメンタルケアの一環として、2005年から AKT (adfærd, kontakt og trivsel) と呼ばれる制度が導入されている。AKT の adfærd は behavior (行動) を、kontakt は contact (接触、交際) を、trivsel は wellbeing (幸福、安寧) を意味する。AKT は、何らかの問題を抱えた子どもに対応するための制度である。

各学校には AKT 指導員 (AKT-Vejleder) を配置することとなっているが、それは現在のところ強制的なものではなく、ウアンホイ小学校では任意で配置している。AKT 指導員の業務に充てる時間数は、学校の規模やニーズによって異なり、ウアンホイ小学校ほどの規模であれば、週に

2、3時間程度の時間数となる。大規模校には AKT の専門職が配置されており、周辺の小規模校を巡回して情報交換も行っている。

AKT 指導員になるためには3年の教育期間を要し、研修終了後に業務契約を結ぶ。

2) AKT 制度導入の経緯

AKT 制度が導入される以前は、何らかの問題があつて学校生活において不適応が生じているような場合には、特別なニーズがある生徒や対応が困難な生徒だけを集めた学校で教育を行っていた。そこは全寮制の学校であり、月曜日から金曜日までは学校で過ごし、週末だけ家庭に戻って生活するようしくみになっている。しかし、このような形態での教育はどうしても経費がかさむため、地方の子どもたちを地方に戻し、各学校で対応し解決していく必要があるということから AKT 制度が導入された。

3) デンマークの小学校でみられる問題

デンマークでは不登校の子どもはほとんどみられない。少なくとも、今回視察を行ったウアンホイ小学校には不登校の子どもはおらず、近隣の学校でも同様の状況である。しかし、どこの学校においても子どもたちは何らかの問題を抱えており、それは学校生活に反映されて表れる。社会的な問題が子どもたちに反映されるため、例えば、デンマークでは離婚率が高く、ほぼ半数程度が離婚するという現状があることから、その不安定な状況が子どもたちに影響している。デンマークの小学校において典型的にみられる問題としては、(1)やる気がない、(2)反抗的で、ケンカになることが多い、(3)忘れ物が多い、(4)クラスで孤立しているなどが挙げられる。クラスで孤立している子どもについては、他の子どもたちから追い出されて仲間外れになっている場合もあれば、仲間と過ごすより一人でいることを好むという場合もある。

4) AKT 指導員の役割

AKT は、他の生徒や大人との接触で問題をひきおこす行動をしていたり、それによって彼ら自身や他者の安寧に影響していたりする生徒に焦点をあてるものである。AKT 指導員の役割は、(1)授業中における生徒の状態(状況)、(2)生徒間や教員との交際状況、(3)生徒の学校における安寧と成績水準と習得状態について観察し指導にあたることであり、いわば生徒の幸福な生活を作るためのアドバイザーである。

5) 問題への対応および他機関との連携

教員が授業中の様子などから子どもたちに関する何らかの問題を見いだしたら、AKT 指導員に連絡をする。具体的な状況としては、例えば、子どもの乱暴な言動によって授業の進行に支障が生じている、授業についていけないなどが挙げられる。AKT 指導員は、子ども本人や両親とも話をして、状況を把握して問題の原因を探り、解決策を検討する。市で雇用されている児童心理学者にも相談しながら、問題に対応する。また、各クラスから2組ずつの保護者が選出されている。いじめの問題については、この保護者が様々なアレンジをして対応する。

デンマークには、「家庭医」と呼ばれる主治医が国民一人一人に割り当てられる制度がある。しかし、学校で顕在化している子どもたちの問題については、学校での状況が分からなければ適切な判断をすることができない。したがって、一般的な身体疾患の場合とは異なり、専門の機関を介して医療機関へ紹介する。医療的な対応を要する子どもについては、市の児童心理学者から、PPR (Pædagogisk Psykologisk Rådgivning; 教育心理カウンセリング) という子どもの精神的

負担に関してのケアを行う機関へ連絡し、PPRを通して必要な治療を受けることとなる。しかし、デンマークの医療制度では、命にかかわるような疾患でない場合は優先順位が低いため、治療の必要があると判断されるまでにかかり時間がかかる。

4 おわりに

本邦の状況とは異なり、デンマークの小学校において不登校という現象はほとんどみられない。しかし、それは何も問題がないということではなく、問題の現れ方の違いであると考えられる。これは、社会的背景や教育制度など、社会環境的な違いによるのかもしれない。そして、教育現場では、問題をどうすれば解決できるかということに焦点をあてて対応している。

デンマークの社会システムに学ぶべき点は多い。デンマークを実際に訪れて、「高福祉・高負担の国」についての印象が変化した。例えば、医療制度に関してもエネルギー政策に関しても、国としての明確なグランドデザインに基づいており、無駄を省きながら国民を守る社会システムが整備されている。それは教育領域におけるメンタルヘルスケアの体制についても同様であり、経費を削減しつつ、国民の幸福を考えている制度といえる。国民は、いざとなれば国が守ってくれるという信頼感を持っているようであり、そのような信頼感が国民の高い幸福感につながる要因の一つではないだろうか。

謝辞

デンマーク視察時のアテンドおよびデンマーク事情に関するレクチャーをして頂いたケンジ・ステファン・スズキ氏に感謝する。本研究は、科学研究費補助金(基盤研究(C) 課題番号 22610021)の助成を受けたものである。

参考文献

- 1) 外務省, “各国・地域情勢 デンマーク王国”, <http://www.mofa.go.jp/>
- 2) ケンジ・ステファン・スズキ, “消費税 25%で世界一幸せな国デンマークの暮らし”, 角川SSコミュニケーションズ, 2010
- 3) Københavns Kommune, “AKT-vejleder på skolen”, <http://www.kk.dk/>
- 4) 在デンマーク日本国大使館, “デンマークの医療制度”, <http://www.dk.emb-japan.go.jp/>
- 5) Herning Kommune, ”Pædagogisk Psykologisk Rådgivning”, <http://www.herning.dk/>